

会議議事録

事業名	2022 年度教育課程編成委員会
会議名	第 1 回建築職人マイスター専攻科部会
日時	2023 年 2 月 7 日 (火) 14 : 00 ~ 15 : 30
場所	日本工科大学校 会議室
出席者	<p>長谷川武義委員 (姫路建設組合 組合長)</p> <p>池田 健委員 (播磨左官業組合)</p> <p>井上 雅仁委員 (井上晴登建設 代表取締役)</p> <p>片山 俊行委員 (日本工科大学校 校長)</p> <p>森本 徹之委員 (日本工科大学校 建設学部長)</p>
会議要旨	<p>1. 開会</p> <p>片山委員の言葉で第 1 回建築職人マイスター専攻科部会が開かれた。開会の挨拶と共に教育課程編成委員会の趣旨、委員任期を説明した。</p> <p>2. 議事</p> <p>(片山委員)</p> <p>本日はお忙しい中ありがとうございます。</p> <p>教育課程編成委員会という事で、建築職人マイスター専攻科についてお気づきの点や来年の方向性などご意見や情報の提供をして頂ければ有難く存じます。よろしくお願ひします。</p> <p>(森本委員)</p> <p>昨年、一昨年もお三方で本校の教育課程の特にマイスター科のチェックを頂きながら一年一年過ごしております。</p> <p>何でも構いませんので、今年のまずかったこと、こうなれば良かったということがあれば一言ずついただければと思います。</p> <p>池田委員の方からお願ひします。</p> <p>(池田委員)</p> <p>私の場合、今年は実習ばかりでした。</p> <p>少し感じることでしましては、いきなり現場で初めてするような仕事もあるので、授業である程度練習をしてから実際に現場に出る方がスムーズだと思います。</p> <p>(森本委員)</p> <p>そういう意味においては今年の一年生は一回もインターンシップへ出ていないので、じっくり基礎的な技量は習得させていただいたと思います。</p>

(池田委員)

実際に未経験でも現場で初めてするという仕事もあり、少しでも早めに現場のサイズなど情報が入っていたらたとえ僅かでも練習ができます。

ぶっつけということもありますが学生に任せていても出来ないなので、大変ですがこちらが頑張っって指導をすることでスムーズになるのではないかと思います。

(森本委員)

今年の一年生を見ていたら授業で一応一通りのことは指導していただいております。

ただ池田委員も人数が多いのでネタがなく、何をやらせばよいのだろうというような事で困られていました。校内でするにしても、もう少しメニューを考えておかないといけないかなと思います。

学生はずっと外へ出て行きたいと言っています。

(池田委員)

それには技量が追いついていないです。

(森本委員)

そういう意味では昨年の反省点を踏まえて今年の一年生は外へ出ていくことなく校内でじっくりとご指導をしていただきました。

(池田委員)

それなりにはできていると思います。

(森本委員)

ありがとうございます。長谷川委員の方はどうでしょうか。

(長谷川委員)

色々ありますが、もう少し基礎をじっくりと教えた方が良かったかなと思います。

鋸の使い方にしてもカンナの使い方にしても一通りのことはできるが、すぐに刃の直し方が分からないと言うので、もう少し一年生の間にじっくりと時間をかけて教えた方がよかったと反省しています。

また人数が多いので目の届かない所がたくさんあり、実習の先生をもう一人増やして教えられればと思います。もちろん学生の人数によってですが、検討していただく方が良いと思います。

(森本委員)

学生の人数に対して先生が少ないとのことですが、学校としてはそういう先生の人数を増やす要望には応えられますか？

(片山委員)

去年は前期だけ二人お願いしました。

(長谷川委員)

1年生の前期で道具の直し方と使い方だけを教えますが、去年は18人だった

ので一人では無理がありもう一人入れていただいて教えました。
それでも後期に18人を一人で見るのは忙しかったです。
実際のところ材料を支給していただければ何とか対応は出来ますが、材料もこちらが段取りして作っていくので、学生を見ないといけないし、作らないといけないということで大変でした。そういう事を考慮していただきたいと思います。

(森本委員)

材料といっても卒業研究でしたような大きな物ではなく一年生が加工練習するための物とかを小さな部材とはいえ14セット、15セットを作らないといけないとなると、ご苦労があるというのは重々分かっております。
それがなければ指導に集中できるが、材料を作りながら同時にされているという状況で、卒業する2年生は1年生の時に一人応援していただいたのでかろうじてなんとか対応ができたということですね。

(井上委員)

今年もインターンシップを、大工と左官をメインに来てもらいました。
左官の方は森本先生がついてくださるので、仕上がりがどこまでと森本先生に伝えると先生が「こういう段取りでしないとだめだよ」とご指導くださりしっかり順調にできましたので、左官に関しては全く心配をしております。
大工の方は当社の若い社員が教えるということにしているが、人数が増えてきている分、段取りができていません。
今まで4年やってきて反省点は、目標をもう少し明確に設定していくのが大事だと思います。
あらかじめ何月から何月まで来るというカリキュラムを聞いて、この日は何をするか、ここまでは必ず学生と一緒にやり遂げる、というように、一か月単位で目標設定をして取り組みたいです。
今まではうちの社員に任せきりという部分があったので、どうしても出来たらできた分だけ、やったらやった分だけで、私が思い描いているイメージよりはかなりペースが遅かったです。
こちらの学生は優秀なので、教え方によれば倍くらいのスピードで出来ると思います。
自社の社員でも私が教えたら私の思うスピードで行くが、放っておくと半分しか進まないです。人の使い方とか段取りの仕方とかによって仕事の効率は全然違うので、今年の学生はできれば私とその辺をある程度段取りを組んで、それを自社の社員に目標を持たせて指導をさせ、学生もそれについてくるような体制でインターンシップの受け入れをしていきたいと考えております。

(森本委員)

今年の2年生は1年生から竜野でインターンシップへ行かせていただきましたが、やはり校外だと大工は木を切るだけではないといったことなどを学べまし

た。

長谷川委員がおっしゃったように人数が多いと手薄になってしまうとしたら、半数が現場へ出ることによって校内では濃い授業ができると思うので、私としてはこの体制が有難いです。

(井上委員)

幸い時代がちょうど古民家再生ブームであり再構築とか地域貢献に対する依頼が多く、勉強できる環境はあります。学生にインターンシップで地域のために色々なお手伝いなり来てもらえたら助かりますし、お客様も皆さん良い方で学生も巻き込んで地域活性だとか技術を学んで継承してくれるのは素晴らしいことだと言っています。

よってしばらくはインターンシップを受け入れられるかなといった形です。

(森本委員)

先日井上委員へこの四月からまた2年生を受け入れてくれますかというご相談にうかがったところ、そういった物件があるので大丈夫ですというお返事をいただきました。

(井上委員)

今回は学校の近くになります。

(森本委員)

前は送迎の人手不足という課題があったが今回は橋を渡った向こうの下野田です。

(井上委員)

また夏ごろからは飾磨の天神、竜野も盆明けくらいから400年くらい歴史のある老舗の和菓子屋さんより古民家再生の計画をいただいています。そちらも学生さんが来ることで話題性があります。

(森本委員)

この春からも14人全員入れてしまうと現場がまわらなくなるので、今のところ半分で検討しています。

(長谷川委員)

実際のところは週替わりで入れ替わるのは大変なので、二週間で入れ替わるなどを考えてもらいたいです。

(井上委員)

受け入れる側としましては、学校主体なので長谷川委員がやりやすいようにどちらでも構いません。

プロになっていきなり仕事を引き継いでやるということもあるので、先週誰がやったかわからないことを引き継いでやるということも勉強であって、そこで嫌だったら自分も気を使って次へ渡すときにちゃんとした仕事を渡そうという気持ちになってくれたらいいなと思います。

続けてやればそれはそれでそこまで責任を持ってやるという経験にもなるの

で、どちらでも良いと思います。

(森本委員)

学生からは「先週やっていたことを今週やろうと思っていたのに違う人がやっていた」「自分でしたかった」という不満の声がありました。

それもインターンシップの面白いところでもあるが、学生からすると自分が手掛けたものは最後までやりたかったという職人としての気持ちもわかります。

(長谷川委員)

それなら学校の中でもしっかりやって欲しいです。(笑)

学校では学生気分が出るのかなと思います。

(井上委員)

4年間インターンシップに来てもらっているが、皆、素直で誰一人変な印象を持つような学生はいなかったです。

(長谷川委員)

どうしても職人ではなく現場監督を選ぶ学生が多くなっているなので、もう少し職人になる学生が増えたらいいと思います。

(片山委員)

定刻となりましたので、この続きは来週の第2回教育課程編成委員会で意見交換させていただきたいと思います。本日は貴重なご意見をありがとうございました。

3. 閉会

以上

会議議事録

事業名	2022年度教育課程編成委員会
-----	-----------------

会議名	第2回建築職人マイスター専攻科部会
日時	2023年2月14日(火) 14:00~15:30
場所	日本工科大学校 会議室
出席者	<p>長谷川武義委員(姫路建設組合 組合長)</p> <p>池田 健委員(播磨左官業組合)</p> <p>井上 雅仁委員(井上晴登建設 代表取締役)</p> <p>片山 俊行委員(日本工科大学校 校長)</p> <p>森本 徹之委員(日本工科大学校 建設学部長)</p>
会議要旨	<p>1. 開会 片山委員の言葉で第1回建築職人マイスター専攻科部会が開かれた。</p> <p>2. 議事 (片山委員) 第1回教育課程編成委員会の議論を深める観点から、学生の就職の新んも含めて教育課程についてご意見をお願いしたい。 (井上委員) 大工や左官を受け入れる会社は少ないですか? (森本委員) 大工はともかく左官屋は慢性的に人が足りないので受け入れる会社は多いです。 (池田委員) 左官業界では一番年下で五十歳というのが現状です。 (長谷川委員) 大工は卒業したらすぐ下請けでもプレハブでも一人で担当するので大変だと思います。 (森本委員) 長谷川委員の言われるように、技術を教えたのに大工にならないのかという気持ちはわかりますが、実際にやってみたら思いのほか体力も能力もついていけないから、全く違う職種というわけではなく、いわゆる現場の監督といった建築の知識をもって違う職種に行くのも、特に女子にとっては良い所でもあります。 (長谷川委員) せっかく大工志望で入ってきたのであればという思いはあります。</p>

(森本委員)

監督の方がお金になりやすいという理由で方向転換する学生が最近は多いです。

(池田委員)

理由はお金ですか？

(森本委員)

お二人を前にして失礼ですが目先のお金にこだわってしまうようです。

大工というのは卒業したからといってすぐものになるわけではなく修行という期間が発生するし何より大工さんは自分で道具を買って揃えていかないといけないという点があります。近年道具を支給する企業も出てきているが基本的にはお給料の大半が道具代で消えるのが現実です。

それに引き換え現場監督は基本給が高く土曜日も休みという待遇なので特に女子は現場監督を志望する傾向にあります。

これは男女の区別や差別ではなく、興味本位で本校マイスター科を選択する学生がいるのは事実なので、教える立場としてはしんどさが倍になります。

(長谷川委員)

しんどいとは思わないが、もう少し興味を持ってくれたらと思います。

(森本委員)

そんな学生でも現場に出させてもらえた経験というのは絶対に生きてくるので辛抱していただけたらと思います。

(井上委員)

そういう意味では興味を持ってもらうような教え方もあると思います。

例えばうちへ来てもらうだけが仕事ではなく、うちが手掛けた物件を見に連れていく日があってもいいと思います。

大工で体験してもらって完成したらこんな風になるんだという感動もあります。が、実際に完成を見に来た学生が何人いるのでしょうか。

例えば学生を 4~5 人預かって車に乗せて先輩や自社が手掛けた物件を見てもらうのも勉強だと思います。

興味を持たせるといふ目的であれば、建築についていくらでも語れるし現場の生の声を聞かせることもできます。

(長谷川委員)

技術うんぬんは二の次だから現場を見てまわるのは私も良いと思います。

(井上委員)

入学時は目標を持っていて例えば社寺建築をしたいとか棟梁になりたい、屋台をつくりたい、一人前の左官屋になって土壁を塗りたいなど皆それぞれの思いがあるはずだから、実際の現場を見せてあげるといふのは大事なかなと思います。

マイスターとして技術を磨く為に入学したのだから、その目標に向かって頑張

ろうという風にさせたいです。

(池田委員)

学生になぜ左官を目指したかと聞くとテレビなどの影響か姫路城の改修を目にしたことや、デザイン的なことに興味を持ったという理由が多いです。

たとえ興味本位で始めたとしても実習を通して成長する姿を見るのは楽しいです。

注意したり褒めたりやさじ加減は難しいですが、とにかくお手本を見せるよりもまずは体験させて何が難しいかを気付かせています。

(森本委員)

相性もあるので良いとも悪いとも言えませんが、左官についてうちの指導の中身でいうと、池田委員はまずさせてみるというタイプ、竹内先生でいうとお手本を見せてやってみなさいというタイプで、二人の先生が真逆の指導方法をされています。

更にインターンシップでは別の若い先生に教えてもらおうとまた違った感覚になるので、多種多様な先生がおられるというメリットはあります。

池田委員に物申すこともあります。「池田先生で良かった」という学生の率直な意見を聞くと池田委員のご指導がちゃんと沁みている事を再認識させられます。

それぞれの先生方の良さや癖を日ごろから拝見させていただいています。

長谷川委員のご意見に戻りますが、正直なところメニューから全てこちらで考えるのは大変です。どうしたらいいと思いますか？

人数の関係もあり毎年同じことはできないです。

左官は過去最大の6人ですがどう思いますか？

(池田委員)

同じ現場でも全員が同じ作業をするわけではないし、人数が多いと目が届かないです。

手の早い遅いもある中で作業を与えるのは大変ですし、遊んでいる生徒がいると注意を受けることもあるが、左官は途中で終われない仕事なので周りとは休憩時間がずれてもいいからやり終えるまでやらせています。

(森本委員)

承知しました、その場面だけで叱らないように気を付けます。

井上委員は生徒を温かく見守ってくださっていますが生徒の質は変わりつつあります。

(井上委員)

私共は学校がちゃんと教えてくれているという前提があるので、どちらかという第三者的にものを見られます。

学生それぞれ性格があるけど去年の左官の2人にしても構って褒めるとすごく応えてくれました。優秀な学生は放っておいても勝手にやるくらい意識が高く、

こちらが頼む姿勢で任せるとやってくれます。
その反面できない学生は与えないとできないし放っておくと遊びますが、でもそういう学生が伸びてくれる方がうれしいです。

できるできないで言うと自分も学生の頃はできていないし、今の学生の方がよっぽどしっかりしていると思います。

(池田委員)

なぜか一番気むずかしい学生がよく人のやり方などを盗み、実は一番良くできます。

でも調子に乗るから褒めないようにしています。

(森本委員)

インターンシップ先で褒めていただけるのは良いことですが、学校で常時褒めると作業を舐めてかかるようになります。

(井上委員)

自社でも放つといってもやるタイプもいれば技能五輪から帰るなり急に意識が変わり2ステップ3ステップくらい成長したタイプ、得意分野を与えたら生き活きたタイプの人がいます。

毎日接する中で私は褒めたり助かると感謝を伝え、調子に乗らせる方が良いと考える方です。ずっと怒られて自信をなくし喋らなくなってきた社員に対しては、これはマズいと思い自分につけて自分の仕事を手伝わせるようにしました。

(森本委員)

適材を見て仕事の方向性を決めて行ってあげているところが良い所だと思うし、社員にとっては有難いことだと思います。

(井上委員)

教える人の見方や指導力によって変わります。

(森本委員)

技量を教える世界では均一な教え方ではだめだと思うので、相手によって言葉や接し方を変える工夫をします。就職活動においても気乗りしなかった生徒が現場を見ると働きたい意欲が出るなど、人は目指すものが明確になると気持ちが変わります。

(井上委員)

目配りしながら自分のやるべきことができるように変わった社員もいて、自覚できたことが嬉しいし、こんなに人は変わるものかと思います。

(森本委員)

井上委員からは良い評価をいただいています。今後学校へ要望やご意見、アドバイスなどありますか？

全てできるとはお答えできませんが、今の時点で言えることは人数的な多さになりますか？

(長谷川委員)

それもあります。

あとは実習棟で飲食禁止といているがどうしても昼食をとる学生が多く、その辺は大目に見てもらわないと仕方ないと思います。

ゴミの処理だけは指導してもらえたらと思います。

(森本委員)

確かに現状として棟梁である先生がゴミの後始末をしているのは問題です。

現場は下の者がやるものですし、捨て方にしても缶とペットボトルが混在していて用務員さんも困っています。バツカンへ入れるならまだしも分別のゴミ箱へ違うものを捨てているようです。飲みかけのペットボトルが置かれている現状もあり、細かく指導していきたいので見回りなどの時間が確保できたらと思います。

(長谷川委員)

タバコを吸う学生が多くなり、散らばって吸うので必ず喫煙所内で吸うよう指導もしてもらいたいです。

(森本委員)

特に大工は木のチップもあり引火の恐れもある意識をもって欲しいです。

バツカンへ直に吸殻を捨てる学生もいて、もちろん目にしたら指導していますがマイスターに限らずたくさん喫煙者がいることもあり環境建設の職員もそこまで目が行き届いていないです。

ゴミの分別や喫煙マナーは直接技量に関係ないが、社会人としては大事なことであるため、掃除の仕方も含めしっかり基本に立ち返って指導していきたいと思います。

(長谷川委員)

掃除に関しては、箒やモップも悪くなってきているので早めに交換してもらえたらと思います。

(森本委員)

モップはダスキンで月に一回は交換しているが一週間で真っ白になっています。

(長谷川委員)

モップに付いたゴミを振り落とさずそのまま使い続けるなど、掃除のやり方にも問題があると思います。

(森本委員)

掃除は基本の「き」で、インターンシップ先では掃除の仕方から教えられています。

学校では掃除よりも先に自分の道具を片付けるなど、早く帰りたいという気持ちの方が勝っているようです。

(長谷川委員)

学年によって取り組み方は違うが今年の子は掃除が下手だと感じます。

	<p>(森本委員)</p>
	<p>池田委員が掃除をしても学生が平気でお茶を飲んでいることもあります。飲み物代をせがむ学生までいる始末で、飴と鞭は難しいです。</p> <p>(井上委員)</p> <p>その辺が学生とプロの違いなのか、学校だから甘えられても社会人でそんなことをしていたら許されません。</p> <p>(森本委員)</p> <p>今回ご指摘いただいたゴミやたばこの件は新入生へ向けてもしっかり指導していきたいと思います。</p> <p>(長谷川委員)</p> <p>2年生が変わらなければ1年生もそれに影響されるので、今のうちに引き締めていっていただきたいと思います。</p> <p>(森本委員)</p> <p>学生はもちろん先生方へも意見することが多いですが、それが私の仕事だと思っていますのでご理解いただければと思います。</p> <p>インターンシップにおいて井上委員にお世話になるまでにこちらが学生に教えておくべきことがあれば教えてください。</p> <p>(井上委員)</p> <p>授業とは違いプロと関わる気構えもあるでしょうし学校でもご指導していただいている前提ですが、基本的な挨拶です。</p> <p>また、何を勉強しに来ているのかという自覚をちゃんと持ってもらいたいので、体験したことを記録してもらいたいです。</p> <p>今日したことを絵や文字にするのは意識を高められるので、せめてそれだけはやってほしいです。それを私なり社員がチェックすることで学校とは違う角度でみるので、インターンシップ用のノートを用紙していただけたらと思います。</p> <p>(森本委員)</p> <p>1年生は書き癖を身につけるためにも実習の日報は記録させています。</p> <p>2年生も以前はインターンシップの記録をさせていたが今年はしていなかったです。</p> <p>(井上委員)</p> <p>今日したことの図面を書いて部位の名前を書いて次はこんなことがしたいなど、まとめ方もやりながら上手になっていくものなのでいいことだと思います。</p> <p>(森本委員)</p> <p>井上委員のお話を受けて反省する点もあり、外へ出る授業も記録するよう左官も含めて指導していきます。</p> <p>例えば「塗った」だけではなく何をどんな調合で塗ったのか、どんな点を注意されたのか、などの詳細を書き記すように指導します。</p>

(井上委員)

書こうと思えばボーっと見ているだけではなく作業をしないといけなくなります。

社員に午前と午後の日報を書かせるのも、社長に何をしたか報告することで意識も変わり成長につながります。

(森本委員)

承知しました。この点はおろそかにしていたので改善いたします。

あと何か学校に対してありますか？

オープンな言い方になりますが、マイスターに関しては私が実務的なことを行っていることもあり、行き届かないことがあったりと試行錯誤してきました。

インターンシップを継続していこうと思えば、井上委員との打ち合わせにおいても私に代わる担当者を育てる必要がありますので、担当講師へのご要望がありましたらお願いします。

(池田委員)

実習材料の入荷が遅かったです。

左官の材料は湿気るので、どうしても小口で頻繁に発注を依頼することになります。

(森本委員)

それ故致し方なく学校の決済を待たずに発注をするというルール違反に当たる発注をせざるを得ないため、決済方法の見直しが必要だと思います。

毎日のようにある小口の発注に対し書類が多く必要になることや、現場においてはすぐに必要となる二次部材が出てくることもあり、学校の決済システムを迅速に対応できるように変えていかなければならないと考えています。

マイスター希望でオープンキャンパスへ来た学生に対し、大工と左官のどちらも体験させることに関してはどうお考えですか？

(長谷川委員)

先生方は大変な目に遭われますが、向き不向きがあるのでそれを判断する為にも両方体験させるのは賛成です。

「親の跡取り」など以外に理由がなく入学する学生には選択する手段として有効だと思います。

(森本委員)

実際に大工という言葉だけが先行してしまい、ただやってみたい程度の気持ちで参加する学生が左官を体験してこっちの方が面白いと気持ちが変わることも目の当たりにするので、その学生のタイプや環境にもよるがどちらも体験できる準備をしておこうという気持ちになります。

(池田委員)

左官がどういう仕事か分かっているようで分かっていないので、実際に見たり聞いたり体験することは良いことかもしれないです。

(井上委員)

ワークショップを見ても体験して楽しいと感じるのは左官のようです。大工は目にする機会も多いが左官はなかなか無いし体験する機会も無いのが現状です。

(森本委員)

姫路城の壁が白い理由を聞いても10人中8人は「ペンキ」と答えるくらい左官を知らない世代になっているため、細々ながらも繋いでいって左官に入職していくという図式をつくりたいです。

この度左官業界において日本で一番大きな企業からうちの学生に声がかかったのは感動しました。左官すら知らなかった学生が左官屋になるという事実もあるので、オープンキャンパスで大工と左官どちらも体験させるのは良いと思います。

ただ学生の努力不足が見受けられるので、先生方からも後押しを願いたいです。

(池田委員)

体で覚えるものなのに、学生から貪欲さや有難みがあまり感じられないです。

(森本委員)

先生方のご指導や気苦労は拝見していますし私も指導はしていますが、それ以上動かさないで、やる気へ誘うことをお願いしたいです。

井上委員、インターンシップの継続は今後もお願いできますか？

(井上委員)

今のところ続くと思います。

(森本委員)

送迎の問題もあり遠方に関しては校長と相談しながらになります。

(井上委員)

年間計画に沿って人数も週2回のところ3回に分けて実施するなど少人数にして、こちらで連れていく体制は可能です。

兵庫県全域に工事が増えてきているので遠方もありますが、耐震工事など学生にとって勉強なる工事もあります。

今後の要望として、インターンシップの感想が知りたいです。

続けるうえで学生の生の声を聞くことでこちらも勉強になりますし、また違う企業でお世話になる時にも役立つと思います。

(森本委員)

例えば井上委員に来校していただき振り返りの授業をしてもらうなど、一年を通して経験して得られた知識や気持ちを直接伝える場面があるのは良いと思います。

(井上委員)

甘音屋さんでも改修に関わった学生みんな招待したい思いもあったくらい誰一人無駄な学生はいなかったといえます。それくらい教える側としても出資者の

方にしても思い入れを持っているので、学生の声をリターンいていただくのは大事なことです。

(森本委員)

コロナ禍や時間的な理由で対応が難しかった面もありますが、今年からできるだけ最後はそのような対応を考えたいです。

(井上委員)

お客様も理解があり、喜んで来てもらいたいと言ってくださっています。

(森本委員)

インターンシップの受け入れをしていただいているので、最後の成績もつけていただきたいところです。

(井上委員)

私が一日見られるわけではないので、実際に関わる現場監督になら任せられます。

自社において左官部門を検討するくらいインターンシップの学生は優秀です。

(森本委員)

四月から左官の受け入れを考えていただきたいのですがどうですか？

(井上委員)

どうしても大工下地ができないと左官工事もできないので、四月からの受け入れは難しいです。

(森本委員)

皆さんにご苦勞をおかけしていますので、これからも率直なご意見をいただければと思います。

(片山委員)

本日は貴重なご意見をありがとうございました。

今後ともよろしく願いいたします。

3 閉会

以上